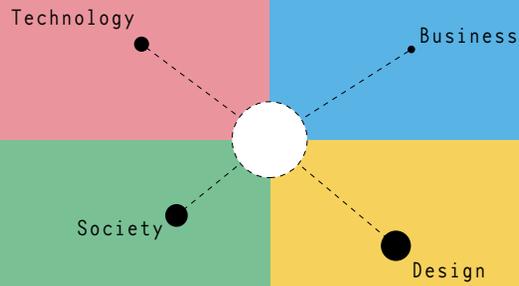


猪股裕一

いのまた・ゆういち: 多摩美術大学教授。1948年東京生まれ。団塊世代の典型。画材小売り、デザイナーのための加工サービス、初めての出力ショップを開き、McN創刊とあわただしく生きたのは性分。今こそ、整理された情報デザインが必要と信じるゆえ、いわゆるデザイナーではないのにデザインを教える。

www.tamabi.ac.jp/design/inomata@tamabi.ac.jp



人々を幸福にするデザイン



もう10年以上親交が続いているアメリカ女性が久しぶりに我が家を訪れた。もちろん話題は自然にテロ事件のことになる。アメリカによるアフガン空爆開始の直前のことだ。彼女はマイレージを使ってアップグレードし、ファーストクラスでサンフランシスコから成田の旅で優雅だったようだ。その機中で彼女は食事のとき、いつもなら白い布のナプキンに包まれ銀製のナイフとフォークがあるはずなのに、ナイフだけがプラスチックだったというのだ。彼女曰わく「プラスチックのナイフだって凶器になるわ! どうしてそんなことしかできないのかしら?」

そして話題はテロ当日に戻る。その時、彼女はニューメキシコで休暇を楽しんでいたのだが、アメリカ中のフライトが止まって帰る飛行機が飛んでいない。たまたまレンタカーを借りていたので、覚悟を決めてサンフランシスコまで陸路で行こうとレンタカー会社に問い合わせたら「この緊急事態だから、どこまで行っても、どこで乗り捨てようともエキストラチャージはしない」とのことだった。気持ちのいい対応に実にうれしそうであった。

どちらの対応も納得させられる出来事だ。片や安全優先の措置、他方は起こった事態にかんがみでの顧客優先である。それらの事とは関係ないかのごとく世界中が「報復の是非」と「文明の争い」へと走っている。個人が災難にあふ。国どうしが争う。そんな中で何のために生きているかを人は自問する。アメリカでは多くの人が今、星条旗を掲げているらしいが、個人と国が限りなく同一線上に見える。日本でこのような事件が起きたらそうなるだろうか。決してアメリカ礼賛やグローバリズムをたたえるつもりはないが、今の日本はそうなるとは思えない。もちろん愛国主義や軍国主義などへ話を転化するつもりもない。

本題に移そう。いま脈絡を整えるべきときだと思う。個人と国家とそれに関係するビジネスもだ。そしてこれらの関係を説明するコミュニケーション手段であるデザイン

でもある。

デザインとは何か? いろいろな答えがある。「問題を解決する手法」とか「可視化されたコミュニケーション」とか「情報の構造化」などかもしれない。しかしその根本は人と人が生きていく原理原則に沿うことではないか。あたりまえのようだが人が幸せになるためというのが基本だと思う。その上に文化とか文明とか社会とかが成り立っている。つまりデザインとは人を幸せにするものでなくてはならない。情報のすべてが数値化されデジタルになっていく。その中でデジタルが「便利」とか「すぐできる」とか「今まで考えられなかった」とかに目を奪われがちな技術革新であることにに対し、デザインの本質を見抜き、それが本物の幸せをもたらすものかどうかをクリエイターが判断すべき時代ではないだろうか?

マシンのスペックが速くなり、ブロードバンド時代をむかえ、画面を読書する時代もすぐそのような勢いだ。速くて便利な時代は止まらないかもしれない。でもそれに対してクリエイターはやさしさやゆっくりさや慈愛の気持ちを促すデザインをできることがとても重要な気がする。そのためにはまず相手を知らなければならないし、丁寧に人に興味を持って接し、相手の気持ちを尊重する心が大切だろう。携帯電話で用を済ますのではなく直接会うことのほうが心が通じあうのと同じだ。環境問題ももちろん。なぜ地球を延命させる努力をするのか。ペットボトルを作って再生処理に悩む。昔はガラス瓶を使い廻し、その昔は容器を持ち込む量り売りであった。電気を使わないアーミッシュのように昔に戻れと言ってるのではない。大量消費時代から循環型社会へ移行している中で、昔のゆっくりとした作法を学び、それをインターネットの時代へ受け継ぐ努力があってもいいはずだと思う。

そうすることでもっと豊かな人と社会を作ることができる。デジタルが何だろうとデザインって人を幸せにするためにあるのではないだろうか。

Illustration: Harada Kazu



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp